

## お祈りさせていただきます

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」第2148号  
(2009年9月15日発行)より

自分の正義・真実が、唯一絶対のものだと主張し、他人に押しつけてくるひと。…いますよね？ 自分自身が、かつてそうだったので、よくわかるのですが、そういうひとたちは、自分に自信がないのです。だから、強圧的な態度で、ごまかそうとするのです。

とはいえ、そんなひとに対抗するのは、大変だし、がんばったところで、徒労に終わることも少なくないものです。そんなとき、私がとっている方法のひとつは、祈ること。そのひとのうしろ姿に向かって、そっと「お幸せに」って祈るんです。攻撃的な態度をとらないと自分を保てないひとが、こころおだやかに、やすらかに生きているとはとても思えませんから。どうぞ、少しでも、幸福になってくださいねと、そんな気持ちで祈るんです。

で、ふと、あるとき、私は、だれに向かって、その祈りを伝えようとしているのかなあと思いました。当の本人には、直接聴こえてはいないのですからね。もしかしたら…。私は、そのひとの守護霊さんに向けて、メッセージを送っているのかもしれない。ええ、守護霊さんというものが、本当にいらっしゃるのかどうか、私にはわかりません。でも、そういうふうにとててもわかりやすいのです。なので、信じる・信じないは別にして、よかったら、便宜的に考えてみてください♪

あなたに高圧的な態度をとって、そのひとは去っていきます。あなたは、そのひとのうしろ姿を見つめています。すると、そのひとのうしろに、そっと寄り添っているひとの姿が、ぼわ～っと見えてきたのです(あくまでもイメージですよ♪)。そう、そのかたこそ、そのひとの、守護霊さんなのです。

守護霊さんが、あなたに向かって、申しわけなさそうに頭を下げます。『すみませんねえ。これでも、私がついてるぶんだけ、まだましなんですよ』「えええええ！ あれでも、まだましなんですかって？！」

あなたは、あせりますが、守護霊さんは、うなずいて、とつとつと、語ってくれます。『ひとにはねえ、それぞれに段階というものがあるんですよ。このかたは、まだまだ学びの途上にいるのです。そして、私はそれを、じっと見守りつづけているのです。ひとの魂というものは、そのひとののプロセスで、少しずつ成長していくものです。このひとの成長は、ゆるやかで、このひと自身、意識のうへでは まだ気づいていないのですが、いつか、わかるときがきっと来ます』

聴きながら、たしかに、魂の成長って、あるんだろうなと、あなたは思います。『それにね、このひとは、自分では気づいていないけれど、ちゃんと、お役目も果たしているのですよ。このようなありかたを見ると、あなたは、けっして、まねをしたくないと思うでしょう？ この世の反面教師になることによって、このひとは、まわりによい影響をあたえているのです』うーん。たしかにそうかもしれないけれど、それでも、こっちはいい迷惑だ。…と、あなた

は内心思います。そのときです。その守護霊さんは、ふっと、あなたのうしろのほうに目をやって、しずかに、にこっと笑ったのです。「?????」守護霊さんは、最後にこう言って、深々と頭を下げました。『自分がどのような生きかたをしてきたかを、ひとは、人生が終わる瞬間に、すべて、知ることができます。それによって、次の人生をどう送るかが決まってきます。私たちには、ただただ、見守ることしかできません。でも、あなたは、このことを知ってしまったのですから、どうぞ、このひとのように、まわり道はしないでくださいね』

気がつくと、そのひとの姿も、守護霊さんの姿も、どこかに消えてしまっていました。あなたは、きつねにつままれたような気持ちで、しばらくぼうっとしていました。それから、ふっと思いました。「あのひとに、守護霊がいるってことは、もしかして…」思わず、背中にそっと、手をやってみましたが、もちろん、何の反応もありません。それでも、あなたは、どうしても気になってしまうのです。「あの守護霊が、自分に話しかけてきたということは、もしも、もしも、自分にも守護霊がついているとしたら、そいつ…、いや、そのかたも、だれか、別のひとに、自分のうわさ話をしている可能性があるってことだ」

やっぱり、ゆるやかに成長している途上だ、なんて言われているのでしょうか。反面教師として、役立っていると、言われているのでしょうか。ひとのことばかり気になっていたら、実際、自分の生きかたは、どうなのだろう。

あなたは、にわかになんか気になりはじめます。そこで、もう姿が見えなくなってしまったそのひとのうしろ姿を思い出しながら、手をあわせました。「大変な環境のなか、がんばってください、ありがとうございます。あなたが、よりパワフルに、そのかたの成長にかかわれますように、お祈りさせていただきます。二人とも、どうぞお幸せに」

それから、自分の背中をちょこっと意識して、祈りのことばをつづけました。「どうか、私が、ひととして、成長することができますように、ちからを貸してください。ほかのひと(守護霊さん)と、うわさ話をするひまがあったら、私が、どうしたら成長できるかを、しっかり教えてください。私も、ひとのことに、こころをまどわされているひまがあったら、自分自身が、どのように成長できるかを、一所懸命考えます」返事は、もちろんありませんでしたが、なんとなく、背中があたたく感じられるような気がしました。…たぶん、ね♪

この物語を、どんなふうに解釈するか。それを活用するもしないも、すべてあなたの自由です。唯一絶対に正しいこたえなど、存在しないのですから、すべては、あなた次第なんですよ♪

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、2003年11月1日創刊。2009年4月、2000号達成。3秒で読める携帯版もあり。無料講読は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>